

思いやりあるケア心掛けて

一関病院が主催する市民公開講座は26日、一関市上大槻街のホテルサンルート一関で開かれた。

慶成会青梅慶友病院看護介護開発室長で老人看護専門看護師の桑田美代子さんが、高齢者を介護する際の心構えなど伝授した。

今年で6回目となる講座で、約120人が聴講。桑田さんは「豊かな最晩年をつくる～高齢者ケアのあり方、心がけること～」と題して講和した。

介護の心得として、相手を思いやった介護の大切さを訴え、「自分が受けたいと思うケアを相手に提供することが一番大切。日々丁寧にケアしてほしい」と説いた。認知症患者の介護については「最も大変なのは当事者。不安の中で過ごしている。自分が相手に不安や苦痛を与えてないか、見つめ直してほしい」と呼び掛けた。

高齢者のケアで大切なことについては「生活者として接すること」とし、「動くことは生きるということ。その人ができることは、できるだけ自力でやってもらった方が相手にもいい影響を与える」と持論を展開した。

また、遺体に化粧などを施すエンゼルメイクに触れ、「生前から介護者の身なりを常に清潔にし、亡くなった後も生前と変わらない姿にしてあげる。見送る家族も見送られた人も、この人にケアしてもらえて良かったと思ってもらえる」とも語った。(2016.11.27, 岩手日日新聞から)



高齢者ケアについて持論を語る桑田さん



開会の挨拶と座長を務める佐藤院長



司会進行を務める菅原事務局長



桑田さんの講演を振り返りながら閉会の挨拶を務める千葉京子師長



医療と介護の連携センターのとりくみについて語る佐藤直子さん



訪問看護ステーションわかばでの事例を語る瀬戸広子所長



笑顔でお出迎えした受付スタッフ



満員盛況の会場